

香川大学レスキューロボット 開発プロジェクト

代表者 奥田 泰文 (工学部知能機械システム工学科2年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、2010年8月に神戸で開催されるレスキューロボットコンテストに出場することを目的としています。レスキューロボットコンテストが救命救助活動を題材としたロボットコンテストであるため、救命救助活動への支援を行うことができるほか、ロボットを設計段階から製作することにより、機械加工や制御などについての実用的な経験と専門知識の向上を目指しています。

2. 実施期間 (実施日)

平成21年12月1日 から 平成22年8月31日まで

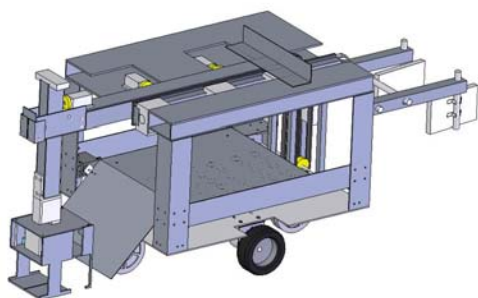
3. 成果の内容及びその分析・評価等

- ・書類審査通過
- ・ビデオ審査通過
- ・レスキューコンテスト予選 通過ならず
- ・香川大学工学部オープンキャンパスでのデモンストレーション

私たちは、足りない知識は勉強会で学び、ロボットの性能の向上を図るため、先生や先輩方にアドバイスを受けロボット製作に取り組みました。

今大会は経験がないのが響き大会予選で敗退という結果に終わってしまいました。

しかし、次回の大会に向けて多くの事を学ぶことができました。その他に大会予選で他のチームと交流ができ、次回大会に向けての知識を学ぶことが出来ました。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、災害現場での救助がいかに困難であるのか、ということを実感させられました。しかし、ロボットに温度をもたせるといふ今まで注目されていないロボットを大会で示せたことは、レスキューロボット活動に大きな影響を与えました。

また、レスキュー活動を普及させるために行った大きな活動の一つとして、私たちは香川大学工学部で開かれたオープンキャンパスでのデモンストレーションを行いました。フィールド上でロボットが救助活動を行う様子を多くの方々に見て頂きました。ロボットが動く姿に興奮する子供たちや救助活動を真剣に見ていた人たちがいて、その様子からロボットやレスキュー活動に興味をもって頂けたことがわかりました。デモンストレーションを行うことによって、香川県内にもレスキュー活動の大切さ、難しさといったような、災害に対して考える機会を設けることが出来たことは、デモンストレーションを見て頂いた人達や工学部内の学生にも大きな影響を与えました。



5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

プロジェクト開始時、主要メンバーは専門知識もほとんど身につけていない1年生で構成されていました。ロボット製作を行うためには、設計・制御・プログラミングなど様々な専門知識を学ぶ必要があります。まだ学習していない専門知識を学ぶために先生を初め、先輩方に教えて頂いたり、他大学が公表している情報を探したり、時にはレスキュー大会の委員会に質問をしたりしました。2年生になり、専門授業で実用的な話があった時に容易にイメージすることが出来たので取り組みやすくなりました。そのため、この大会を通して専門知識を育むことが出来たことは、大変有意義なものでした。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

私たちは、次の第11回レスキューコンテストに出場すべく、すでに活動を始めております。今回の大会はレスキューコンテストについての情報不足から、失敗してしまっていたことがありました。前回の反省を生かし、少ない経験を補うために、他チームとの情報交換も積極的に行っております。今後、少しでも多くの人達にレスキュー活動を知ってもらうためにも、日々活動していきます。

7. 実施メンバー

代表者	奥田 泰文 (工学部 2 年)		
構成員	上総 嘉之 (工学部 2 年)	高石 雅浩 (工学部 4 年)	
	鈴木 遼 (工学部 4 年)	吉久 和也 (工学部 3 年)	
	曾根 光作 (工学部 2 年)	岩谷 亮明 (工学部 2 年)	
	溝口 航 (工学部 2 年)	亀井 寛生 (工学部 2 年)	
	根矢 健嗣 (工学部 2 年)	松永 裕之 (工学部 2 年)	
	鎌田 浩希 (工学部 2 年)	井尻 拓人 (工学部 2 年)	
	竹村 祐人 (工学部 2 年)	藤原 拓也 (工学部 1 年)	
	武政 智史 (工学部 1 年)		